

なべ回転軸ベアリング給油方法

旧タイプの大型 IH 調理機にはなべ回転軸用ベアリングのケーシングにグリスニップルが付いていません。

初期に納品しました機械は給油切れが原因で回転軸部で異音が発生したり、回転時に負荷がかかり止まってしまうなどのトラブルの発生が考えられます。

もしトラブルが発生してもベアリングが破損していない限り、適切な箇所に給油していただくことで復旧する事が可能です。

下記資料を参考に給油を行なって下さい。

【注】作業を行う際には必ず電源を切った状態で行うようにして下さい。

※追加

ベアリングに封入してあるグリスが流れ落ち、内部に油カスの様な物がたまっているのが見受けられます。

オイルスプレーで給油を行う前に、まず潤滑剤で内部で固まってしまっているカスを溶かした後に給油を行なって下さい。

上：異物が入り込んでるベアリング。下：給油切れのベアリング

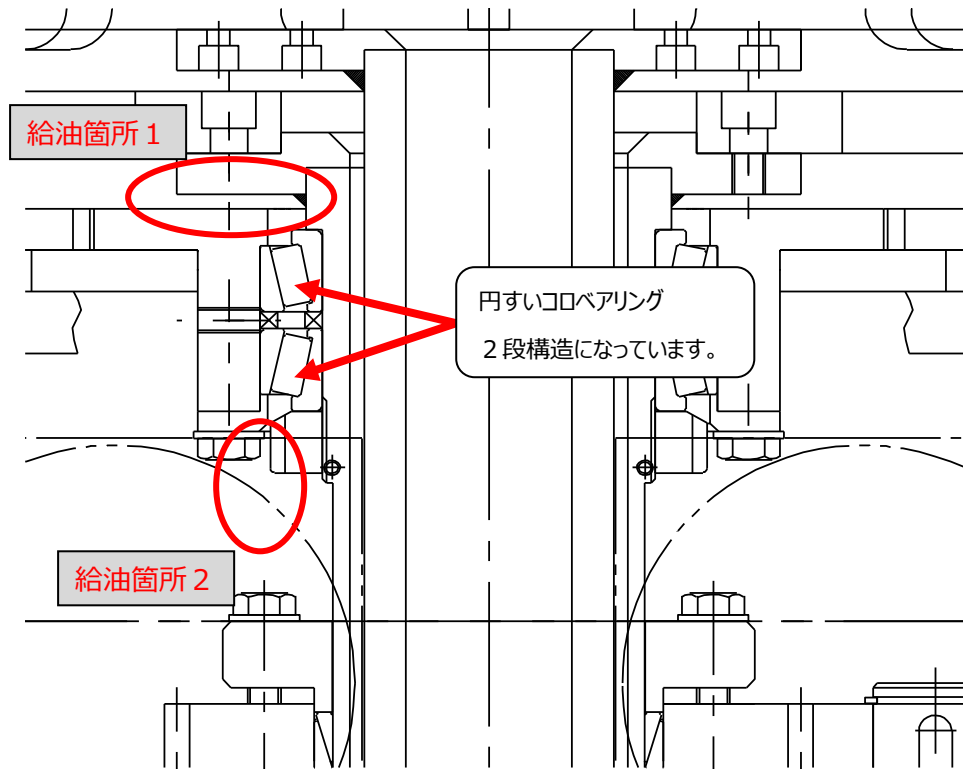


グリススプレーはベアリング全体に行き渡りにくいので使用を控えて下さい。

高粘度のオイルスプレーの使用をお勧めします。(オイルスプレー ¥2,000- ロングノズル付き ¥2,200-)



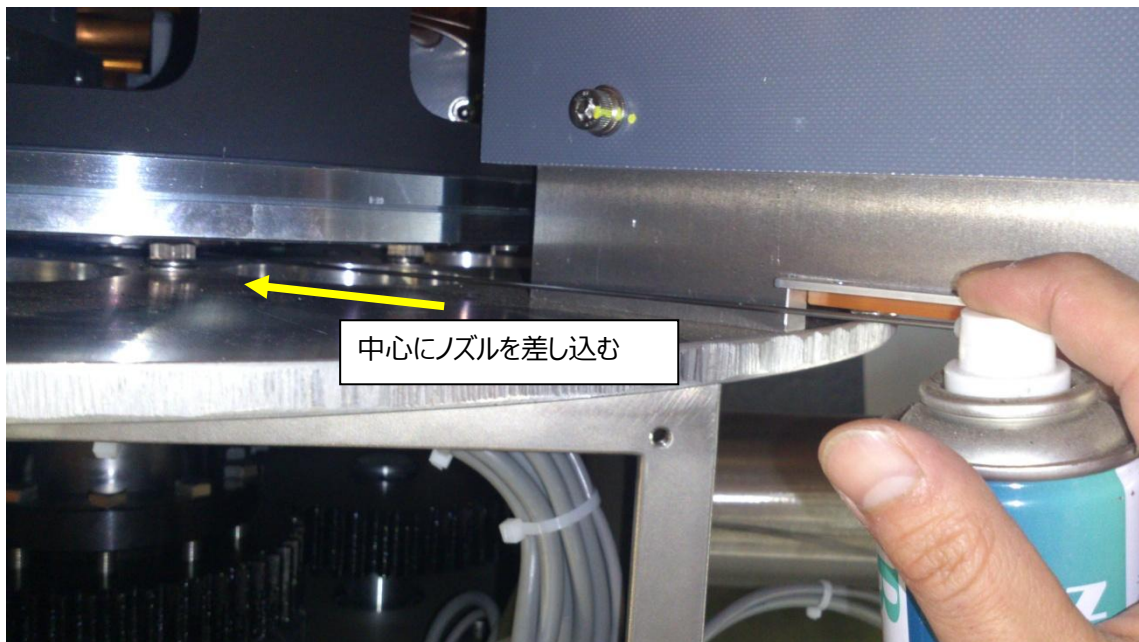
下記 2 箇所からオイルスプレーで給油を行なって下さい。



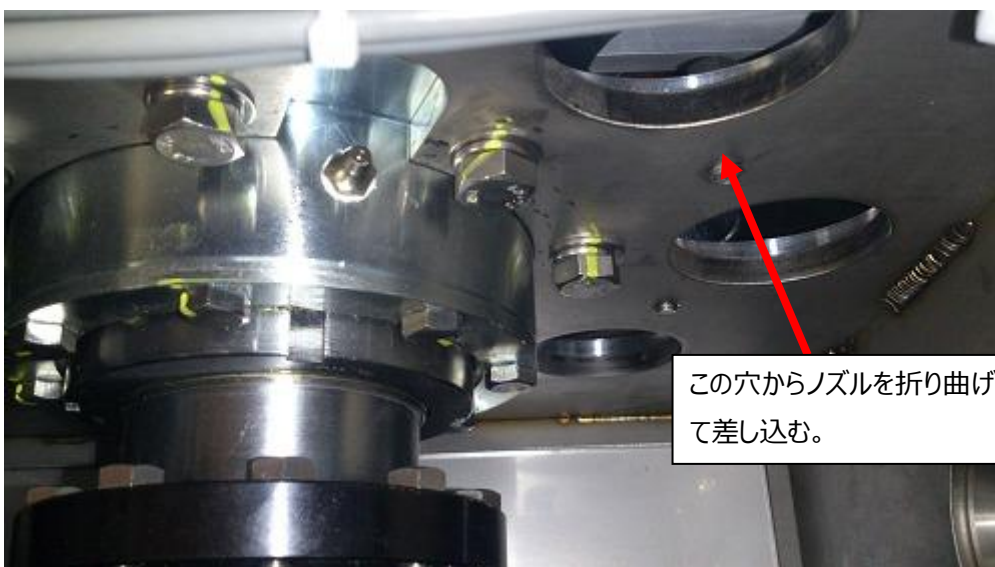
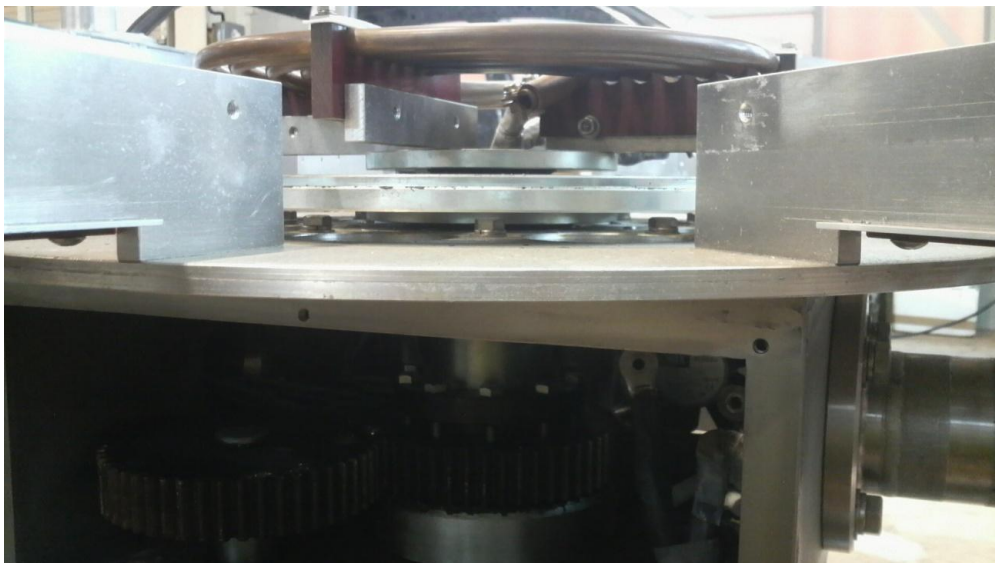
【1 箇所目】

鍋裏のパunchingカバーを1枚外し、鍋の回転軸にノズル先端を差し込み直接給油を行います。

回転軸まで距離がありますのでロングタイプノズルを使用して下さい。ロングタイプノズルがない場合は次に説明しているノズルが短いタイプの説明を参照して下さい。



【ノズルが短い場合】



【2箇所目】

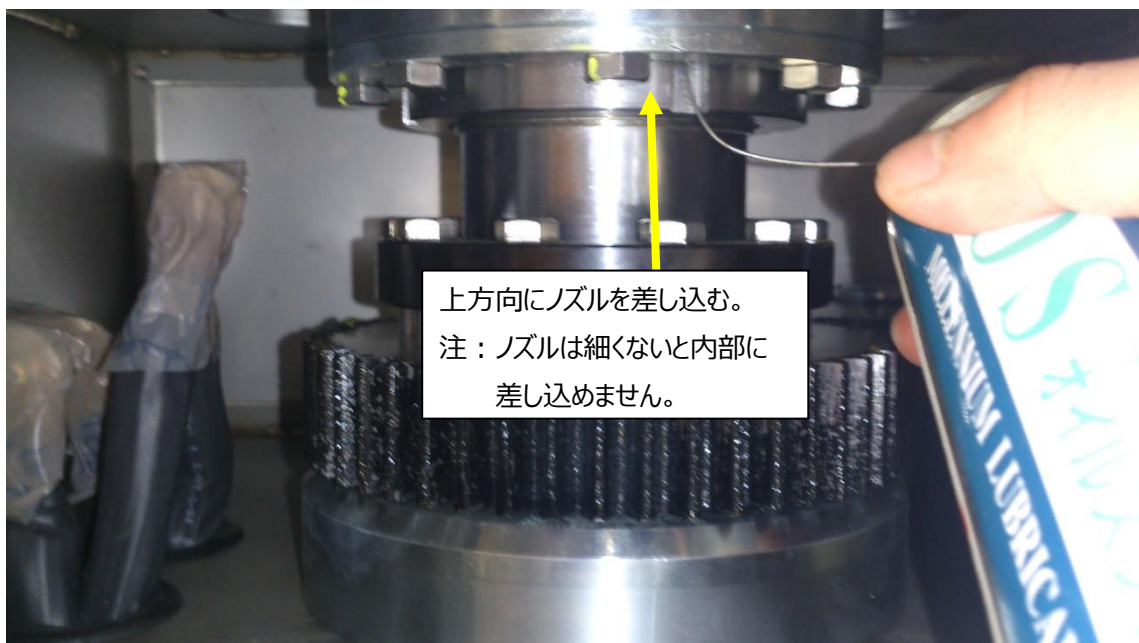
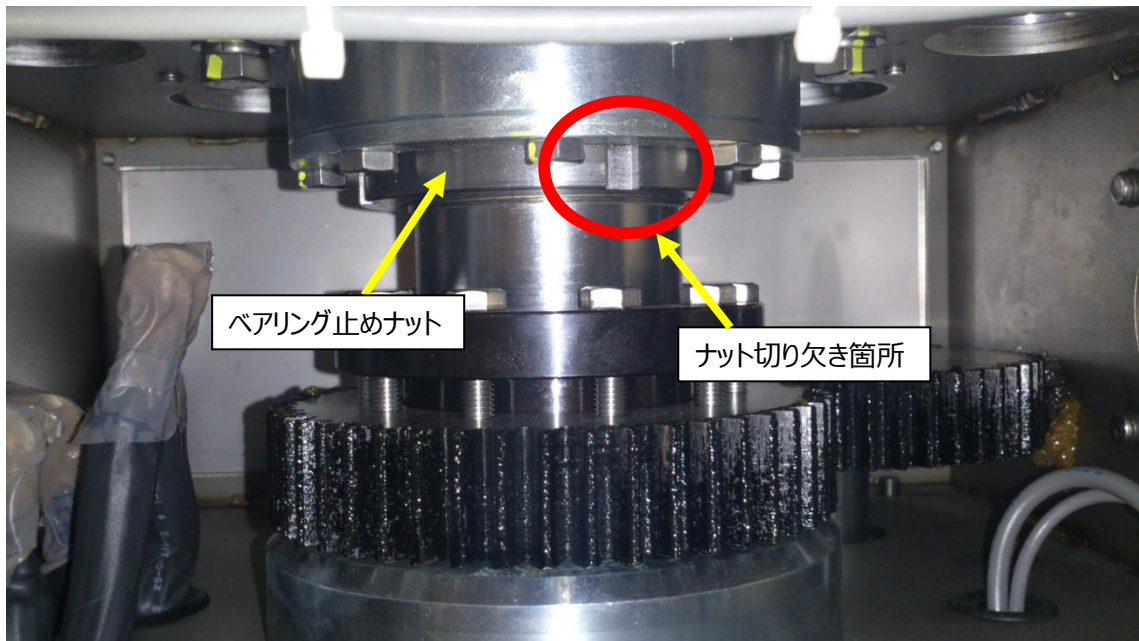
鍋下のギアBOXのカバー（冷却ファンが2個付いているカバー）を外すとなべの回転軸が確認できます。

鍋を手でゆっくり回すと写真の赤丸の部分（ベアリング止用ナットの切り欠き）が計四カ所あります。

油汚れ等でわかりにくいかもしれませんが。その場合はケーシングまわりの汚れをスクレパー等で小削ぎ落として下さい。

この切り欠きにノズルの先端を差し込み（20 ミリほど入ります）直接オイルを注入して下さい。オイルがナットの周りからジワジワと垂れてくるくらい注入して下さい。

鍋を手で回しながら計四カ所給油を行なって下さい。



上記の方法でうまく給油が出来ない場合はベアリング止めのナットを外して（反時計回り）直接ベアリングに給油する事もできます。ただし、ベアリング止めのナットを外すのに時間がかかる事がありますので、作業時間が1～2時間とれる時以外は行わないほうが良いかと思います。



【参考：破損したベアリング】

